

025110-000-4

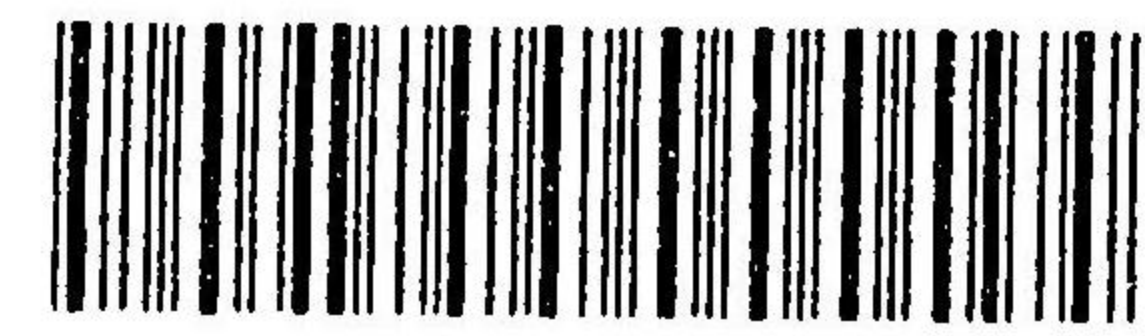
特67-678

三河國避暑案内

岩瀬 覺栄 / 著

M24

ADC-2480





序

東海道を旅行する者に山水景勝の地と聞
 必らず先づ駿河を云ふ、駿河は風光好
 然れとも三伏、金を鑠すの日、暑を避
 け、氣を養ふの所を求めは、則ち三河を措
 て他よ得へからず、後に山を負ひ前は海に
 臨める蒲郡の浴場、豈に彼の興津の及ぶ所
 ならんや、舟を艤して佐久に遊ひ、草鞋を
 穿ちて本宮、煙巖に攀づ、一は山遠く、一
 は峯高く、固より芙蓉、函嶺に及ぶ能いさ



るも、好勝の地たるに於ては、亦た特色の有るあり、然るに彼の名、世に高く、此の稱、人に知られず、之れ一は東海道に沿ひ一は邊隅に在るを以てのみ、今三河新聞社此等の勝地を一小冊に集めて避暑案内と云ふ、一夜岡崎の僑居に泊す、偶々一部を惠まる、其厚意を謝するか爲め、一言を題すると爾と、

三陽 巖々堂主人識

◎三河國避暑案内

緒言

(一) 世人夏季に至り避暑閑遊の地を撰ふ、先づ指を濃州養老の瀧、相州大磯の海水浴、及攝州須磨の海水浴等に屈せざれば、伊香保、有馬、熱海の諸温泉を適所と爲す、近來、尾の大野の如く海水浴を以て、其名隣郷に聞ゆと雖も、亦養病閑遊の地にほらず、陋狭喧繁の俗境たるを免かれざるなり、其名未だ大は江湖に鳴らざるも、雅地仙境に富

(二)

み眞しんに夏季かきの苦熱くねつを避さくるに足たり、併あせて宿痾せうかうと療れうし英氣えいきを養やしなひ以もつて心身しんしんの快樂くわいらくを極きよくむるに餘あまりあるの適所てきしよは、實じつに我わが三河さんかの國くにに多おほしとす、今いま其各地そのかくちを列記れつきして以もつて之これを江湖かうこの遊客いやくかくに案内あんないせん、

●碧海郡の部

●衣ヶ浦の海水浴

衣ヶ浦えがうらの浴水場よくすいせうは大濱港おほはまみなとの海邊かいへん權現ヶ崎ごんげんざき近傍きんぱうを適當てきたうの場所ばしよとす、此權現ヶ崎このごんげんざきは大濱港おほはまみなとの西南せいなんの方ほうに指さし、海中かいちゆうに突出とつしゆつしたる小岬こみさ

(三)

にして、前面ぜんめんには尾州びしゆうの知多郡長蛇ちたごのちやうじやの如ごとく横よこたはり、北きたよ龜崎かめざき、半田はんたの両港りやうかうを望のぞみ近ちかく武豊港たけとよみなとと相對あひたいす、海上かいじやうには汽船帆船きせんはんせんの出入しゆつにゆつ織おるが如ごとく、其風色そのふうしよくの雅がなる衣浦灣えうらわん中の第一景だいいけいなり、この處ところに遊あそはんとする者ものは、西にしよりすれば尾びの半田はんたより舟ふねにて大濱おほはまに渡わたり、東ひがしよりするものは街道車馬かいだうしやばの便べんあり、遊客いやくかくと大濱港おほはまみなとの客館きやくかんに滯留たいりゆうするを最都合もつとごうごうよしとす、此地このちは三河西部さんかせいぶの一小都會せうとくわいにして、客館きやくかんの清麗割烹せいらいれうりの佳味かみ絃妓げんぎの嬌容せうたう、

(四)

其繁華大都會に敢て歩を譲らざるあり、

●幡豆郡の部

●平原の瀧

平原の瀧は有名なる茶臼山の中腹に懸りて、同郡の東部平原村に在り、水は數條に分れて丈餘の上より落ち來れり、瀧の傍に一の堂宇あり前面に蜿蜒たる青山を望む、此處を俗客の休息所となす、又茶店兩三家あり酒飯も遊客の需めに應じ、價廉にして物美味なり、老松楓様鬱蒼として炎日を遮

(五)

り、溪水奇石の間を流れ風色の幽雅殆んど形容をべからず、其勝景のはなとだ似たる所あるを以て、世人之を小養老と稱せり、來遊の人は山麓の禪寺を借りて宿となさば一層閑雅ある可し、此處へは岡崎のステーションより、車道南へ指して三里程なり

●宮崎の海水浴

宮崎の海水浴と古來より有名なる場所にして郡の南端に在り、背に山を負びて地勢頗るよし、海に蹠りて巨大の礁ありこれ又天

(六)

然の浴地を作す、年々夏季に至れば四方よ
と浴客來集し繁昌せり、前面にと數多の島
嶼横はりて、其間を千舟百舟の白帆をかけ
て通ふ様、其景色の佳なること如何も、明石
の浦と淡路嶋との風勝よさも似たりける、
後には青山ありて翠容人を招くが如く、近
くは佐久嶋を望み遠くは煙波を隔て、勢志
二州の諸山に對す、浴間の樂みには釣磯魚
竿に上るあり是れ此處の特勝なりとす、此
隣村には有名なる詩家岡田竹沙氏あり、又

歌人にては木俣周平櫻部大梁の諸氏あり、
風韻の士吟笥を曳きて避暑の遊をなす亦快
なり、

佐久嶋の海水浴

佐久嶋海水浴の他に勝れて効驗著しきこと
は既に世人の知れる所なり、故陸軍々醫監
正五位勳三等横井信之君が、先年來しばし
ば此處に來浴して實驗せられ、皇國第一等
海水浴場とまで稱贊せられに死、又前愛
知縣公立病院長たりし後藤新平君も、佐

(七)

(八)

久嶋の如き他も其比を見ざる良地たりと公評せられたる程なり、今茲に委しく同島に於ける位置、氣候等を記すべし、

●島の位置 幡豆郡に屬し陸地を離るゝおと二里斗りにして、前には尾の日間賀島、篠島等横はれり、北方には一帯陸地を望む、殆んど三河内灣の中央に位し戸數三百有餘を有する大島なり、南岸半丁程隔たる處に小天女島あり、

●氣候 西山を背にし南に面して村落を爲



久嶋

すが故に、冬暖くして夏涼し、加ふるに山
松樹多く空氣殊に新鮮なり、

●海水浴場 島の南面天女島と陸地と相對
する、一帯の間を最良の場所とと、此處と
潮水の交換頗るよく少しも汚濁すること
なし、又岸に大なる礁いくつとなくありて
、その礁の中央は各々數十人を入るべき
凹あり、其有様たらぬの如し、日中に至れ
はこの中にある潮水沸き返りて天然の潮湯
となる、此に浴するときは其心地よれこと

(九)

(十)

云とん方なし、天女島と陸地と凡そ半丁程ある間に太き綱を通して、これに浮舟浴水の設けあり、浴客は浮舟に乗りにて綱にともり力もて引くときは、自在に此方より彼岸に渡るを得べし、其往復する間潮水に浴し且運動することを得、この方法は横井國手の考案されたるものなりと言へり、

●客館 數多ありとも、其清麗にまて風色に富み、而も遊客をして不便を感せしめざるは、龜屋を以て最一とす、此家は本年の

(一十)

新築にて廣大なる一層樓あり、其他幽靜閑雅なる諸寺院等も皆客の需に應ず、滞在費之上下數等の區別あれども、凡そ一日の賄料金十五錢より金三十錢までを要す、

●里程 佐久島に渡海せんとする人は、幡豆郡一色港又は吉田港を便利とす、兩地よりは日々の便船あり、船賃乗合にて一人金四五錢仕立船にて金二十錢より金二十五錢までを要す、

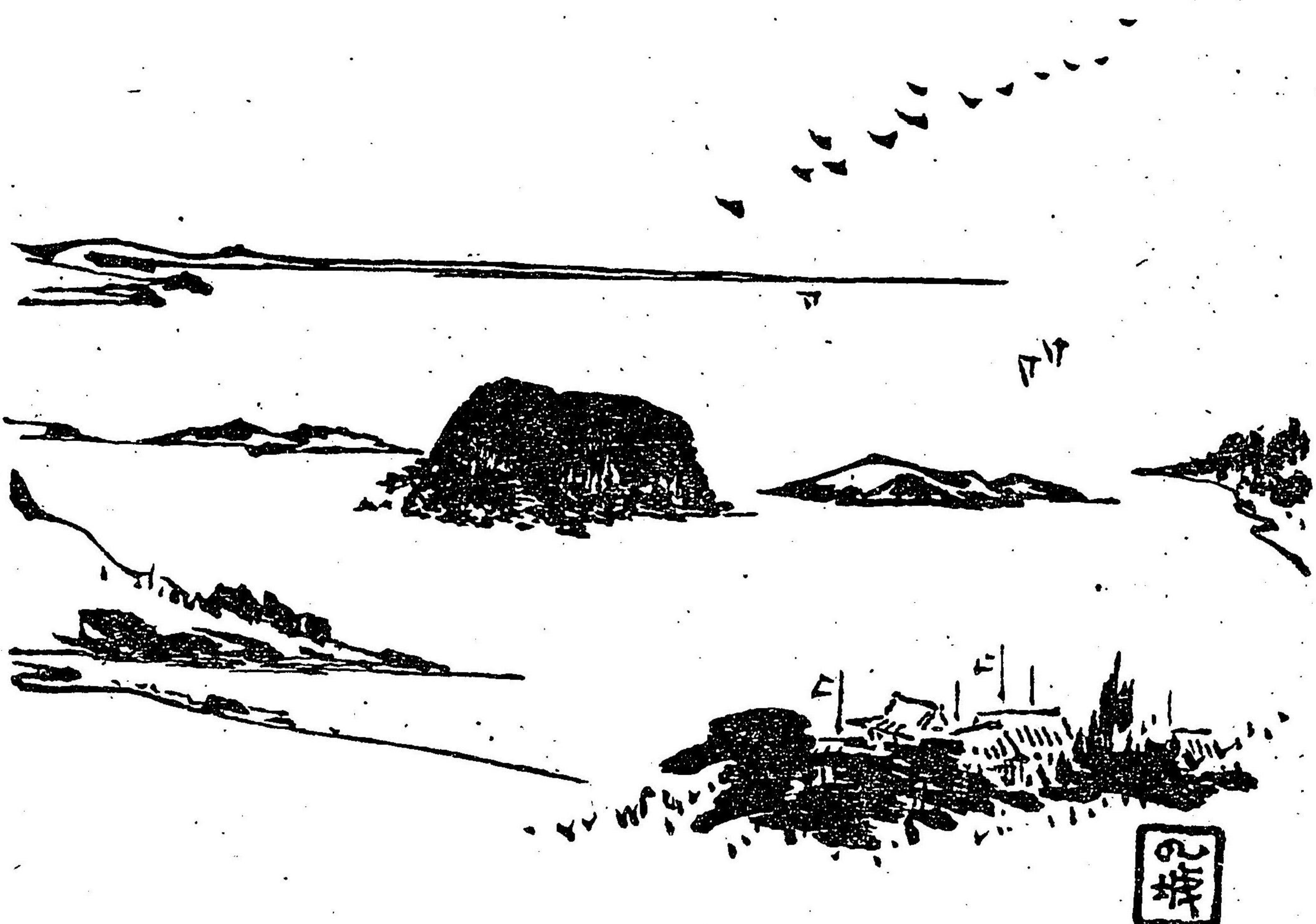
●遊樂 浴客日々の消閑には晴好の日漁舟

に櫓して、魚釣りの遊びを爲すり、又は日
 間賀、篠島等を見物に乗り廻はれば是を最
 上の樂みなるべし、この島は多景多勝頗る
 絶奇を極む、人之を呼んで小瀛洲と稱せり、
 因ふ記す初めて佐久島に渡らんとする人
 は往返一度一色港に出て、同地の八景を
 探り風流の韻士を訪ふ可し、

●寶飯郡の部

●蒲郡の海水浴

蒲郡の海水浴場の開けたるは僅に兩三年の



の景

事にして、實よ東海道鐵道開通以來とす、

今は往來の便と地形の利とに因り、三河第

一繁盛の避暑地たるのみならず、恐らくは

東海道無二の好場所たるべし、

●位置 同地と寶飯郡の西部海濱に接する

一村落なり、西北東の三方は皆山脈を以て

圍繞し、南の一面のみ海に臨む、前には五

三の小嶋星列し遙に渥美郡と雲煙相望り

、東海道の鐵道は此地方の海岸に沿ふて敷

設せらる、加ふるに海路の便通するが故に

(四十)

四方の來往實に自由を極むるに至るまで、

●氣候 三方山を負びて南海に瀕すれば、

冬時は暖温にして夏季は清涼なり、殊も海

岸一帶松林相連り空氣清鮮たり、

●海水浴場 海岸には汚物なく潮水極めて

清澄なり、危険の岩礁等なく一面砂石にし

て、海潮に浴する安全を得べし、

●客館 此地に客館數多あれども、遊客を

休泊せしむるに足るものは、健碧館、海月樓

、海老屋、角市等なりとす、就中健碧館佳き

り、其他靜雅なる處にては諸寺院あり、滯

在費は凡そ一日は賄料金二十錢より金三

十錢までを普通となす、

●里程 蒲郡に到るよは海路よりすれば自

在なり、陸路は東海道の鐵道に乗るを便利

となす、

●遊樂 浴客の日々閑に苦むときは、舟を

やどひて程近き竹嶋の辨才天に遊ぶべし、

此處の風景は東海道鐵道旅行中最も有名な

る勝地たり、又鐵道の便をかりて豊橋岡崎

(五十)

の春と尋ね、或は豊川參詣も可なるべし、

●●●●●
本宮山

本宮山は三河の中央に位する名山にして、
國幣小社砥鹿神社の在る所なり、麓より山
巔に至る五十丁あり、老樹大木蒼々として
晝猶や昏さが如く、遠く伊勢の内灣を望み
て風景絶奇なり、此山に避暑旅行をなさば
其快味亦言ふ可からず、

●●●●●
坂本の瀧

坂本の瀧は蒲郡より北一里の所あり、谷

深しと云に非るも緑樹鬱蒼、數流の瀑布懸
崖にうりて水聲谷に響き日中金を鏝すの
時此處に遊へは尙ほ寒さを覺ゆ、

●●●●●
渥美郡の部

●●●●●
伊良湖崎の海水浴

伊良湖崎は渥美郡の突出したる先の處を云
ふ、尾張の知多郡と相對し又伊勢志摩二州
と相望む、東は遠州灘に臨み遠く太平洋と
通ず、伊勢の内灣桃取等の諸島嶼前面に星
列し、白帆此間に出沒する其風景實に畫も

(八十)

及あひ難がたし、此處このところ最良さいりやうなる海水浴場かいすいよくやばうたり殊ことに空氣くうきの清鮮せいせんなる、海氣かいき療養りやうやうに於ては無類むるいの場所ばしよたり、此地このちには彼の有名いりやうめいなる三河みかわの歌仙かせん磯丸いそまるの古蹟こせき等あり、豊橋とよはしより陸路りくろ十五里ごじふり程あり車通くるまつうす、

●八名郡の部

●石巻山の温泉

石巻山いしまきさんの南部なんぶ豊橋とよはしに接近せつじんせたる處ところに位くらと、此山このやまに温泉おんせんあり頗る清潔せいせつたり、地高燥ちかうそうなるが故ゆゑに空氣くうき新鮮しんせん亦宿病しゆくびやうを驅かるに足たる、

●南設樂郡の部

●鳳來寺山

幽邃ゆうすい爾雅にげい遠く俗塵ぞくじんを去さるものは鳳來寺山ほうらいじさん是れなり、此所このところは名だたる三河みかわの勝區しょうくにて山水すいすいの美特びとくに超絶てうせつせり、無味むみの溪水せいきを掬すくひ無情むじやうの峯巒ほうらんに對して、夏季かきの炎塵えんじんを洗あらひ浩然こうぜんの英氣えいきを養やしなふに足たる、老杉らうさん楓葉ほうやう鬱蒼うつそうとして半空はんくうを遮さへり涼氣りやうき足下そくかに湧わく、此山上このさんじやうにては夏時かきに帷衣かたびらを用もちふること稀まれなりと云ふ、山寺さんじの境内けいだいには東照公とうせうこうの廟べやうもあり、總すべて絶勝ぜつしやう

(九十)

(十二)

奇景に富む、山寺松高院の老僧竹窓西山亮
教師は、風雅を好める人にして歌詩の道に
も通せられければ、時に消閑の對手にもな
らるべし、又山寺を下りて程も遠くらぬ長
篠の古戦場をも尋ねれば一層興あるまど、
す、鳳來寺に到るよは岡崎より御油新城を
經て十二里斗、豊橋より新城を經て七里餘
なりとす、三河國最第一の避暑地なり、

鳴澤の瀧

鳴澤の瀧は南設樂郡の北部段戸山の南麓に

(一廿)

あり、瀧は懸れる山を澤戸山と云ひ水源を
段戸山に發し流れて瀧川に入る、此川の名
を鳴狹川と云ふ、一二三の瀧に分る三の瀧
長さ十間に餘り幅九尺余にして、斷崖絶壁
の上より落ち來り其四下霧立ちて肌寒し、
瀧の上にやう平地あり此處は不動尊の堂わ
り、老杉躡松楓樹等鬱蒼として天日を蔽ひ
涼氣掬す可し、此處に至るには伊奈街道の
田内と云へる村より二里半程山奥なり、守
義村より十數町あり、夏時の避暑に最好の

地なれども世人未だ此瀧あるを知らず、

●北設樂郡の部

●川合山の天然橋

川合山の天然橋は敢て避暑地となすべきにあらずれども、其奇景は以て世に誇るに足れり、此近傍に乳岳目薬岳等の奇観あり、あゝの處に至るに川合村より三輪川の流に沿ふて二十五町あり、

●東加茂郡の部

●駒山

駒山は郡の東北部美濃に界する所に位して牛地村の傍にあり、此山は亦三河國中名山の一、數へらき、老樹枝を交へて天光昏ら、風冷かに氣清く、銷夏の好地なり、因に記す、此地と南朝の忠臣恩地左近装を變へて猿引となり、潜伏したりと云ふ、今尙は其古跡存するあり、

●西加茂郡の部

●猿投山

猿投山は國の西北隅に聳へて尾張、美濃に

(四廿)

跨る高山なり、老杉古檜全山を蔽ひ、溪流潺湲神を澄ましむ、其清凉掬すべし、山巔に猿投神社あり、素盞鳥命を祭る、有名の社なり、

●額田郡の部

瀧山寺

瀧山寺は常盤村瀧にあつて、岡崎を距る東北に一里なり、東西に山聳へ、中に一條の溪流走り、激湍岩を打つ、此流に沿ふて民家あり、之を瀧村といふ、入口に二王門あり

(五廿)

高さ數丈、飛彈内匠の建る所、行く五六町にして一小丘あり、樹木鬱蒼の下に一線の石階あり、登りて頂に達すれば大堂あり、役の小角の創建にして薬師如來を安置す、即ち瀧山寺あり、傍に東照神君の廟あり、壯麗を極む、麓に寺僧の庵室あり、閑静俗を絶つ、脚氣、肺病の患者によし、寺に稀代の寶物什器多し、

●真福寺

真福寺は岡崎を北よ距ると二里の所にあり

(六廿)

山高からずと雖も樹木茂る、其頂は堂あり、
薬師如來を安置す、是亦避暑の一好地なり

小美村の鮎釣り

村は岡崎より東一里にあり、男川に沿ふ、
水清く流れ急にして年魚多し、漁夫を雇ふ
て綱を張り、糸を垂るゝの愉快、決して長良
川鵜飼の比に非ざるなり、此村は老松生ひ
茂れる兩山の間、に狹まれて、夏尚ほ暑を覺
へざる程に涼し、路坦かにして人力車を通
す、最も便利の地なり、

(完)

明治廿四年七月三十一日印刷
同年同月三十一日出版

三國河岡崎町大字魚町番外

著者 岩瀬・覺榮

發行兼印刷者 同 國岡 大字籠田八番戸
森下熊男

同國岡町大字籠田百九十四番戸

印刷所 三河新聞社

